

# 真間釈迦仏御供養逐状

文永七年九月二六日 四九歳

釈迦仏御造立の御事。無始曠劫よりいまだ顕はれましまさぬ己心の一念三千の仏、造り顕はしめますか。はせまいりてをがみまいらせ候はばや。「欲令衆生開仏知見<sup>乃</sup> 然我実成仏已来」は是なり。但し仏の御開眼の御事は、いそぎいそぎ伊よ房<sup>予</sup>をもてはたしまいらせさせ給ひ候へ。法華經一部、御仏の御六根によみ入れまいらせて、生身の教主釈尊になしまいらせて、かへりて迎ひ入れまいらせさせ給へ。自身並びに子にあらずばいかんがと存じ候。

御所領の堂の事等は、大進の阿闍梨がきゝて候。かへすがへすをがみ結縁しまいらせ候べし。いつぞや大黒を供養して候ひし、其の後より世間なげかずしておはするか。此の度は大海のしほの満つるがごとく、月の満ずるが如く、福きたり命ながく、後生は靈山とおぼしめせ。

九月二十六日

日 蓮 花 押

進上 富木殿御返事